

男女共同参画 推進室便り

by RA

2021年3月31日 発行

神戸大学男女共同参画推進室 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 Tel: 078-803-5471/5017 Fax: 078-803-5285



科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」 活動報告

第2回国際外部評価委員会開催

2018年度に採択されたダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)事業も3年目を迎え、2018・2019年度の事業成果に対する第2回の国際外部評価委員会を2月5日にオンラインで開催しました。会議には、三成美保委員長、板東久美子委員、小澤佳秀委員の3名が参加されました。海外委員のサニエ・ギルセル・コラット委員とロリー・L・ジーン委員とは、これに先立ち、1月25日・26日にZoom会議で面談を行うとともに、2月5日の委員会にはビデオレターを送っていただきました。委員会では、事業の4つの目標と女性派遣研究者の研究成果等について各委員のコメントと質疑応答を行い、海外委員の評価についてはアレキサンダー室長からコメントしていただきました。委員会の評価では、女性派遣研究者の研究業績の向上に効果を上げていることなどの取組成果は高く評価するが、在籍・採用比率の改善に向けた取組が弱い点が課題であり、「女性応募者のない公募の見送り」や「ロールモデルとなる女性研究者を増やすことは、優秀な女子学生を集めるための経営戦略」として有効であるなど、様々な意見や提案を頂戴しました。結果については、男女共同参画推進室のホームページで公開しますのでご覧いただければ幸いです。

中間評価

ダイバーシティ事業(2018年度～2023年度)は、2020年度3年目の中間評価を受けました。

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	取組実施体制	今後の進め方
A	b	a	a	b	a

B評価だった「目標達成度」については、女性研究者採用比率が25%程度に留まっており、30%以上の恒常的達成の見通しが立っていないので、実効性の高いポジティブ・アクションを策定することにより改善に努めること、「取組実施体制」には、学長をトップとする全学的な推進体制が十分に機能しているとは言い難いので、学長のリーダーシップの下、部局が積極的に参画し女性研究者の活躍促進を図る全学的な体制が構築すること、を求められました。改めて抜本的な対策により女性研究者の比率を上げていく必要があります。



神戸大学ユネスコチェア オンライン国際COVID-19会議

男女共同参画推進室長 アレキサンダー ロニー

2月20日~21日に神戸大学ユネスコチェア「International COVID-19 Conference」(オンライン)を開催しました。神戸大学とユネスコチェアの4か国のパートナー大学(ガジャマダ大学{インドネシア}、高雄科技大学{台湾}、メーファールアン大学{タイ}、トUNK・アブドゥル・ラーマン学{マレーシア})から33名の学生や先生が参加し、計45名の会議となりました。神戸大学からは3部局・10名の学生が精力的に英語で発表し、グループ討論に参加しました。

二日間にわたる会議は、アレキサンダー室長の挨拶と報告から始まりました。次に、各国の学生が選んだ短いCOVID-19対策動画をみんなで観ました。感染防止対策はどの国も同じでしたが、それぞれのビデオに文化や国の違いを読み取ることができて、好評でした。その後、神戸大学ユネスコチェアのテーマであるジェンダーと脆弱性を中心に各国の学生がプレゼンテーションをしました。10分間という短い時間でしたが、都市部と農村部の違いや宗教による支援、LGBTQ+の人々の状況など、さまざまな視点からの報告を聞くことができました。

最も時間をかけたのは小グループによるディスカッションと発表です。国、文化、専門が異なる学生が、ジェンダー・脆弱性を中心に①コロナの課題や対策、②自らの関わり方、③次世代に残していくものについて議論し、最後の日にその成果を発表しました。同じテーマだったのに、それぞれの焦点がジェンダー、貧困、移民・少数民族などと異なっていたことが印象的でした。ふりかえりアンケートや3月2日に開催された杉村理事への報告会での感想によると、オンラインだったのに、新しい情報や視点を得ることができ、しかも友だちもできたことで、とても有意義だと思う人が多くいました。次回もオンラインか、それとも対面ができるか。今後も、情報を共有しながら、一緒に新型コロナウイルス対策を探っていきたいと思えます。



女性教員との オンライン懇談会

11月25日、26日、27日のランチタイムに、女性教員とオンライン懇談会を実施しました。これまでは各キャンパスにいる女性教員との日程調整が難しく大勢の方の意見を聞くことができませんでした。しかし、今年はオンライン開催が可能となり、20名の先生方とお話することができました。子育てと仕事の両立支援制度の拡充や、海外派遣プログラムの継続といった要望、ハラスメントのない職場をめざしてどのような取組が必要かといった意見を聞くことができました。これからも、不定期ですがオンライン懇談会を開催しますので、気軽に参加していただくと嬉しいです。



オンライン 介護個別相談

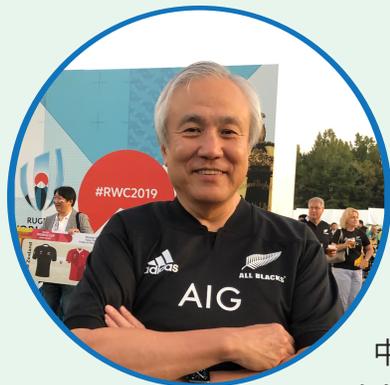
NPO法人ホームホスピス神戸なごみの家 理事長 松本 京子氏にお願いし、2月1日、2日、3日に、オンライン介護個別相談を開催しました。これまでは、専門家の話を聞くという講義形式を取っていましたが、今年はオンライン環境が整ったことをうけ、個別相談を実施しました。相談した方からは、「介護で抱える問題を、個別に相談でき、第三者の意見をいただくことで気持ちが楽になった」「色々なサービスを使って、家族の負担を減らせることがわかりました。」といったような感想が寄せられました。いつ我身のこととなるかわからない介護については、随時相談できる体制を整備していきたいと考えています。2021年度の実施が決まりしだいHP等で案内します。

「新型コロナウイルスが就労環境へ与えた影響に関する調査」にご協力をお願いします!

非常勤の方も含め、神戸大学全教職員を対象にした調査をKUICで実施しています。

本調査は、匿名で設定していますので個人が特定されることはありません。率直なお気持ち・ご意見をいただければ幸いです。

退任のご挨拶



男女共同参画担当理事退任に当たって

理事・副学長 杉村和朗

2年前に、男女共同参画担当を打診されたときは、お引き受けはしたものの、全く経験の無い業務が務まるのだろうか、内心不安を感じていました。幸い、豊富な経験と見識をお持ちのアレキサンダー室長、岡田副室長、中原主任政策研究職員、そして前任の担当理事である内田先生がコーディネータとして残って頂けるとのことで、ドキドキしながら務めさせて頂きました。

1年経って慣れてきた頃に、新型コロナウイルス感染症のために、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの大きな売りである、国際共同研究、人事交流プログラムが全く動かなくなり、中間評価に向けて暗雲が立ちこめ始めました。採用比率、在籍比率の目標達成のために、部局回りをしましたが中々手応えは無く、力不足を感じた次第です。

中間評価では、数値目標を達成できていない事を始め問題点を指摘されました。一方、途中段階までいっていた女性研究者の海外派遣の成果が上がってきたこと、実施体制や、補助期間終了後の取り組みが評価され、総合評価ではAを獲得することが出来、ほっとしております。

文科省補助金が終了した後の資金集めや、他大学に先駆けた取り組みである、インクルーシブキャンパス構想等、多くの仕事を残して退任することになり、後任の奥村理事には大変申し訳なく思っております。先進的な男女共同参画の取り組みを学ぶなら神戸大学がお勧めと頂ける組織に発展することを心より願っています。

コーディネーター退任のご挨拶

男女共同参画推進室コーディネーター 内田一徳

理事・副学長を退任してから2年間にわたり、男女共同参画推進室コーディネータを務めてきましたが、3月末日をもって退任することになりました。2018年度採択のダイバーシティ事業も中間評価でAをいただき、ほっとしています。共創ネットワーク企業の皆様やダイバーシティ基金にご寄附いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。アレキサンダー室長とのアメリカ弾丸出張、岡田副室長・中原先生らとの欧州出張、昨年2月コロナ蔓延直前のアジア出張、キャリアセンターと共同開催したリケジョ博士人材と企業のマッチング会と北大出張など、楽しい思い出をありがとうございました。女性教員の在籍・採用・昇任比率の数値目標達成には、アンコンシャスバイアスの払拭をはじめとする高いハードルがありますが、男女共同参画推進室と各部局の女性教員のチームワーク、さらに大学執行部の英断で実現できることを強く期待しています。オリンピック組織委員長問題以降、ジェンダーイクオリティに対する世論の風向きは大きく変わったと思います。フォーラムのテーマである「誰もが生き生きと働くことができる職場環境を実現するための女性上位職登用と働き方改革」を実行し、ぜひインクルーシブ・キャンパス構想を実現させていただきたいと思います。今後は谷明勲先生にお願いしますが、陰ながら応援しています。

